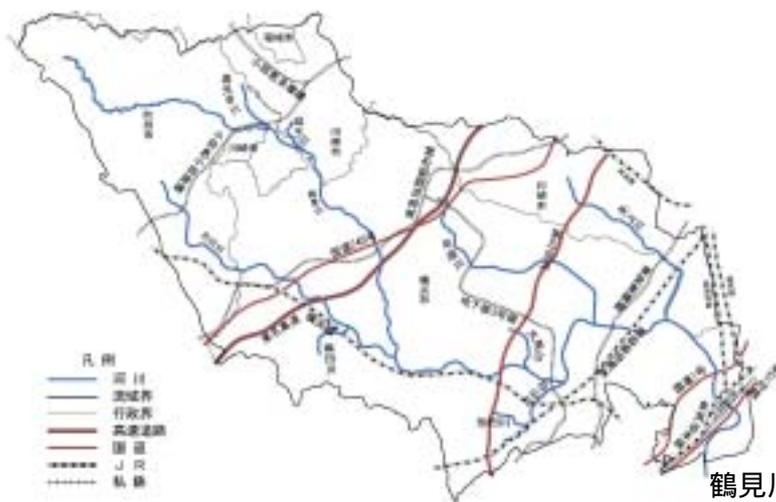


鶴見川水系河川整備計画の概要

鶴見川流域とは？

鶴見川は、東京都町田市上小山田の多摩三浦丘陵を構成する谷戸群の一角（田中谷戸：標高約170m）に源を発し、多摩丘陵と下末吉台地を東流し、沖積低地の入り口付近で恩田川と合流、その後は流れを緩やかにして神奈川県横浜市街地を東へと貫流、鳥山川合流後ほぼ直角に流向を北へ転じ早淵川合流手前で再び東へ戻し、矢上川を合わせた後、左岸に神奈川県川崎市街地を望みながら南東に流下、京浜工業地帯から東京湾に注ぐ幹川流路延長約43km、流域面積約235km²の一級河川です。

鶴見川流域には、鶴見川のほかに矢上川、早淵川、鳥山川、砂田川、大熊川、鴨居川、麻生川、真光寺川、恩田川、梅田川の10支川が流れています。



鶴見川流域の概要

流域の特徴

流域には、首都東京と国際都市横浜の住宅域が、河口付近には日本産業の中核を支えてきた京浜工業地帯が広がり、首都圏における社会・経済・文化等の基盤を成しています。

鶴見川流域は、昭和30年代中頃から急激に市街化が進展し、森林などの緑豊かな自然環境が著しく減少し、地表がアスファルトに覆われたことなどによって、流域の保水・遊水機能が失われ、浸水被害の危険性が増大しました。



【東京都管理区間】



良好な河川環境（町田市）

鶴見川の上流部には、源流域の良好な自然地と多様な水辺環境が残されており、アブラハヤやホトケドジョウなどの比較的清流を好む種が生息しています。

良好な自然環境が存在している箇所では、河川の蛇行を活かした川づくりとして現川を保全した整備や旧河川敷等を利用した緩傾斜護岸・ワンドを設置するなど、水辺に親しめる川づくりを行っています。



緩傾斜護岸の整備（町田市）

河川整備の目標

鶴見川流域では、自然と共存する持続可能な流域社会の再生を目指します。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、鶴見川水系の一級河川で、国土交通省、東京都、神奈川県、横浜市の管理する区間とします。

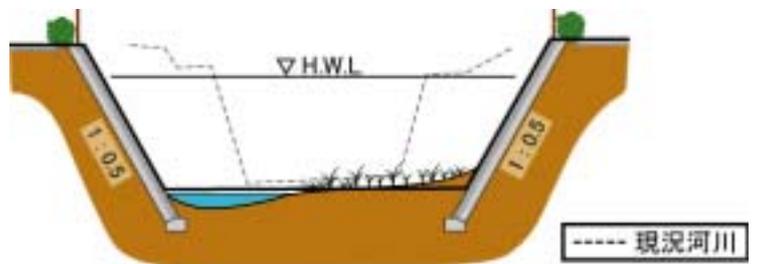
計画対象期間は、おおむね30年間とします。なお、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備（東京都管理区間）（計画の本編では、他の管理者の整備についても記述しています。）

治水

洪水による災害の発生の防止又は軽減

鶴見川流域では1時間あたり60mm規模の降雨に対応することができることを目標としています。東京都管理区間では、河道断面を確保する対策として河道の拡幅や河床の掘削を行います。



環境

河川環境の保全、創出、再生

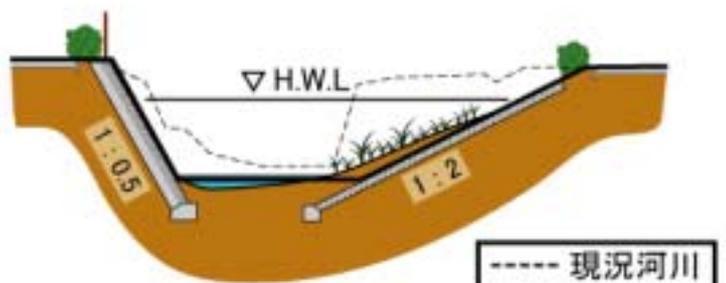
河川整備にあたっては、生物の生息・生育・繁殖環境の確保、瀬や淵のある多様性に富んだ河川形態の保全・創出、良好な河畔林の保全などに努めていきます。

既に整備された区間においても、現有の動植物の生息状況や河川環境の把握を行い、緑豊かな水際の再生や落差工の改良などに努め、良好な河川環境への改善を図っていきます。

また、河川利用については、治水施設との調和を図りながら可能な限り、緩傾斜護岸や管理用通路の緑化等を実施し、人々が親しめる水辺空間の確保を図っていきます。



良好な河川環境の保全



緩傾斜護岸の整備

今後の川づくりにおいては、「地域に活かした親しめる川」を目指し、住民の皆様や市民団体、関係機関との意見交換などにより、地域のニーズを十分に把握し、周辺環境との調和が図られた川づくりを進めていきます。